

令和6年度森林管理署職場体験プログラム（夏期）の実施

和歌山森林管理署において、令和6年9月18日(水)から20日(金)までの3日間、農林水産省就業体験実習として、キャリア実習生1名の受け入れを行いました。

【9月18日】(水)

初日は模擬入庁式の後、署長から和歌山森林管理署の管内概要等の説明を行いました。



模擬入庁式



管内概要説明

その後、獣害対策事業を実施している西ノ河（にしのかう）国有林（田辺市）に移動しました。

西ノ河国有林においてはシカ捕獲事業で継続的にシカ捕獲を実施しており、捕獲わな設置実習として「小林式誘因捕獲法」によるわな設置体験を行いました。

また、これまでシカ個体の捕獲をわなにより行っていますが、シカは母シカを中心に複数頭が集団生活する習性があることから、その集団を一網打尽とする方法として「円形ワナ」を設置し、その効果の検証をしているところであり、これに関する実習も行いました。

なお、当地においては捕獲したシカ個体の残渣処理の省力化を図る目的で、これまで個々に埋設していた個体処理に代え、大型排水管を利用した残渣処理を行っており、低コスト・省力化の実証に取り組んでいるところであり、これに関する実習も行いました。



「小林敷誘因捕獲法」の設置体験



大型排水管を使用した残渣処理



円形ワナ

また、当国有林には人手を加えず自然のまま維持管理する原始的な森林生態系を有する森林などの生物多様性の核となる森林を「保護林」として設定しており、「西ノ河モミ・ツガ遺伝資源希少個体群保護林」と「西ノ河ツガ・ブナ希少個体群保護林」の2箇所の保護林についての実習を行い、その日の実習を終了しました。



保護林での実習状況

【9月19日】(木)

実習2日目の午前中は、販売業務の実習を行いました。

国有林で伐採した素材の販売方法の一つとして、民間の木材市場への素材供給を行っており、当日は委託販売先である「西牟婁森林組合田辺木材共販所」に出材されたスギの検知業務を行いました。

当署から出材された材をものさし等で「径級」と「長級」の測定と欠点についての調査を行い、その結果を検知野帳に記録し、丸太材積表を用いて材積の計算の実習を行いました。

当日は、「市日」でもあり12時30分から開始された「せり売り」（「売手」が一極づつ「買方」とで1㎡当たりの販売単価を決める売り方）の様子を見学することができ、国有林からの出材された材もせり落とされています。



検知実習



せり売り見学

午後からは、治山事業の実習として、田辺市上秋津地区で実施している民有林直轄治山事業現地において、監督員補助としての実習を行いました。

当日は、掘削が進められている集水井工（直径3.5m、完成時深さ38.5m）の床掘土留の出来高管理確認補助として深さ25m地点の偏心量の出来形管理の確認補助などの実習を行い、その日の実習を終了しました。



民有林直轄治山事業（上秋津地区）での実習

【9月20日】(金)

実習最終日は、和歌山県林業大学校の現地実習に同行しての実習を行いました。

和歌山県林業大学校の現地実習箇所として和歌山森林管理署が管理している国有林を提供しており、今回は宮城川国有林（すさみ町）での下刈等の実習です。

気温が30度を超える中での下刈作業となりましたが、適宜に休憩等を入れながら熱中症への対策を取りながら、無事に下刈実習をすることが出来ました。



作業前の安全指導



下刈実習

下刈実習終了後には、宮城川国有林でのシカ防護対策としてアニマルネットを使用した効果的かつコストを抑えた資材の活用に取り組んでいる状況についての講義実習が行われ、3日間に渡る現地での実習を終了しました。

帰署後、署長より模擬辞令交付を受け、これをもって3日間のキャリア実習のすべてのプログラムが終了となりました。お疲れ様でした。



模擬辞令交付



最後に、森林管理署等において農林水産省の体験実習を受けられた方におかれましては、この実習等の経験により是非とも将来の林業を担う人材として、林業等に携わる仕事を選択していただきたいと思います。